

ご参考・講師情報

【東京企画構想学舎について】

東北芸術工科大学(学長・松本哲男)と株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ(代表取締役社長・小山薫堂)が運営する「企画」に特化した社会人の為のコミュニケーション・スクールです。多様なフィールドの第一線で活躍する講師陣のもとで、「企画」を通じてクリエイティブとビジネスを両立する方法を体験的に学ぶ、これまでにない学校です。業界やメディアの枠を超える柔軟な「思考力」と、先を読みつつ人を動かす「行動力」を兼ね備えた、新時代の“しかけ人”を育成します。

【企画 12 人セミナー講師一覧】

■小山薫堂(こやま・くんどう)

放送作家・脚本家／東北芸術工科大学企画構想学科長

日本大学芸術学部在学中に 1985 年『11PM』で作家デビュー。代表作に「カノッサの屈辱」「料理の鉄人」、自身の小説をドラマ化した「セレニディップの奇跡」などがある。現在、エッセイ執筆・商品開発・ラジオパーソナリティ・様々なメディアでライフスタイルを提案するなど多分野で活動。初脚本映画『おくりびと』は、第 81 回アカデミー賞 外国語映画賞、第 32 回日本アカデミー賞 最優秀作品賞ほか 10 冠達成、モンテリオール世界映画祭・グランプリ受賞。東北芸術工科大学企画構想学科で学科長を務める。

■高松聡(たかまつ・さとし)

GROUND 代表/チーフ・クリエイティブディレクター

1963 年生まれ。電通に入社後、営業局を経てクリエイティブ局に転局。2005 年にクリエイティブ・エージェンシー ground を設立。主な仕事に、日清カップヌードル「NO BORDER」・「FREEDOM」、NTT レゾナント「教えて！goo」、アディダス「日本代表キャンペーン」「読売巨人軍」、オリンパス「E シリーズ」「PEN」、KDDI「iida」「What's android au?」、UNIQLO「ヒートテック」「UJ」「UT」など。朝日広告賞、TCC 賞、TIAA ゴールドなどに加え、カンヌ国際広告祭金賞、クリオ賞グランプリ、アドフェストグランプリ、ロンドン国際広告祭金賞、NYADC 金賞など海外広告賞も多数受賞。国内外広告賞で審査員も勤める。世界初となる宇宙ステーションでの CM 撮影成功後、恒常的な宇宙での撮影インフラ確立を目指し、(株)SPACE FILMS を設立。2011 年には宇宙旅行会社(株)SPACE TRAVEL を設立、代表取締役を務める。近年は、企業戦略、ビジネスモデルや、商品企画のコンサルティング活動も増えている。

■伊藤直樹(いとう・なおき)

クリエイティブディレクター、株式会社パーティー／CCO(チーフクリエイティブオフィサー)

1971 年静岡県生まれ。クリエイティブディレクター。ADK、GT、Wieden+Kennedy Tokyo 代表を経て 2011 年 4 月より独立。同年 6 月に株式会社パーティーを設立。おもな仕事に、ナイキ／NIKEid「Nike Cosplay」、マイクロソフト／Xbox「BIG SHADOW」、ソニー／ウォークマン「REC YOU」、相模ゴム工業／サガミオリジナル 002「LOVE DISTANCE」、ナイキ／Nike Free Run+「NIKE MUSIC SHOE」など。カンヌ国際広告祭(フィルム部門、フィルムクラフト部門、サイバー部門、アウトドア部門、PR 部門などで日本人最多の 5 つの Gold を含む 14 のライオンを獲得)、アドフェスト(3 年連続グランプリ)、東京インタラクティブ・アド・アワード(グランプリ、ベストクリエイター)をはじめ、ここ 4 年間で国内外 130 以上の賞を受賞。また Cannes、D&AD、NY ADC、Clio、Oneshow など国内外の賞の審査員を歴任するとともに、海外での講演も多数行う。著書に『「伝わる」のルール 体験でコミュニケーションをデザインする』(インプレスジャパン) <http://www.prty.jp/> twitter: @naokit

■遠山正道(とよやま・まさみち)

株式会社スマイルズ代表取締役社長

1962 年東京生まれ。三菱商事初の社内ベンチャーとして(株)スマイルズを設立。後に MBO にて 100% 株式を取得。Soup Stock Tokyo、ネクタイブランド giraffe、新しいセレクトリサイクルショップ PASS THE BATON の企画・運営を行う。近著に「成功することを決めた」(新潮社)がある。HP:<http://www.smiles.co.jp/> BLOG:<http://toyama.smiles.co.jp/> Twitter:<http://twitter.com/#!/masatoyama>

■幅允孝(はば・よしとか)

BACH(バッハ)代表/ブックディレクター

人と本がもうすこし上手く出会えるよう、様々な場所で本の提案をしている。羽田空港「Tokyo's Tokyo」や二子玉川「フォーティーファイブ・アール」などショップでの選書や、千里リハビリテーション病院のライブラリー制作など、その活動範囲は本の居場所と共に多岐にわたる。

<http://www.bach-inc.com>

■猪子寿之(いのこ・としゆき)

ウルトラテクノロジスト集団チームラボ代表

1977 年、徳島市出身。2001 年東京大学工学部計数工学科卒業と同時にチームラボ創業。大学では確率・統計モデルを、大学院では自然言語処理とアートを研究。チームラボは、プログラマ(アプリケーションプログラマ、ユーザーインターフェイスエンジニア、DB エンジニア、ネットワークエンジニア)、ロボットエンジニア、数学者、建築家、Web デザイナー、グラフィックデザイナー、CG アニメーター、編集者など、様々な、情報化社会のものづくりのスペシャリストから構成されている集団。インターネットが張り巡らされた情報化社会において、サイエンス・テクノロジー・デザイン・アートの境界を曖昧にしながら、『実験と革新』をテーマにものを創ることによって、もしくは、創るプロセスを通してものごとをソリューションする企業です。主な実績として、産経デジタルのニュース・ブログポータルサイト「iza」。『花と屍(2008)』を仏ルーヴル宮内国立装飾美術館で発表。カイカイキキギャラリー台北にて開催された『生きる』展にて展示した映像作品『生命は生命の力で生きている』を第 54 回ヴェネツィア・ビエンナーレ関連企画展へ出展。

■吉田正樹(よしだ・まさき)

テレビプロデューサー

1983年フジテレビ入社。以来、2009年1月1日に至るまで、主にバラエティ番組のディレクションとプロデュースを担当。携わった主な番組は、『夢で逢えたら』『ウッチャンナンチャンのやるならやらねば!』『笑う犬の生活-YARANEVA!』『トリビアの泉』『爆笑レッドカーペット』『爆笑レッドシアター』など。また、2005年にはフジテレビとSBIインベストメントが共同で設立したBB・メディアファンドの運用に関わる。2006年にはデジタルコンテンツ局デジタル企画室兼務となり、「放送と通信の連携プロジェクト」において『アイドルング!!!』などを手がける。2009年フジテレビ退職。株式会社吉田正樹事務所を設立、および株式会社ワタナベエンターテインメント会長に就任。現在は、Klab 株式会社顧問、SBIホールディングス株式会社非常勤取締役、株式会社ディー・エル・イー顧問、NPO 放送批評懇談会選奨委員を務め、各種メディアに関するコンサルティング活動を行う傍ら、web 番組ネスレアミューズ「いつもココロに太陽を」、映画「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」「聯合艦隊司令長官山本五十六」にプロデューサーとして参加するなど、コンテンツ制作にも積極的に参加している。

■嶋浩一郎(しま・こういちろう)

博報堂ケトル/クリエイティブディレクター、編集者

1968年生まれ。上智大学法学部卒業後、博報堂に入社。コーポレートコミュニケーション局での企業PRや情報戦略担当、『広告』編集長などを経て2006年に博報堂ケトルを設立。おもな仕事に、講談社およびサントリー「社長島耕作就任キャンペーン」、KDDI「クイズ鉄道王決定戦」、「旬」がまるごと」プロデュースなどがある。赤坂経済新聞編集長、NPO 本屋大賞実行委員会理事。

■マエキタミヤコ(まえきた・みやこ)

ソーシャルクリエイティブエージェンシー「サステナ」代表

1994年よりNGOの広告に取り組む。エコライフスタイル・メディア「エココロ」編集主幹。テレビ朝日「素敵な宇宙船地球号」番組内「エココロテレビ」企画監修。「ぬりえピースブラカード」新聞広告など国内外広告賞多数受賞。「100万人のキャンドルナイト」よびかけ人代表幹事、「ほっとけない世界のまずしさ」2005キャンペーン実行委員、「大地を守る会」ブランディングディレクター。最近は「フードマイレージキャンペーン」「みんなで発電」「リスペクト・スリーアール」「大地を守る会」のブランディング、戦争を具体的に予防する「HIKESHIプロジェクト」、地方議会を活性化する「みどりの1000人リッコーホ」も手がける。主著『エコシフト』講談社現代新書。京外国語大学平和構築 Peace&Conflict Studie・立教大学・上智大学非常勤講師。東北芸術工科大学・京都造形芸術大学客員教授。

■後藤繁雄(ごとう・しげお)

編集者、クリエイティブディレクター、京都造形芸術大学教授

1954年大阪府生まれ。写真集、アートブックを数多く制作すると同時に、インタビュー、ライターとしてさまざまな媒体にかかわる。広告制作、商品開発、ウェブ開発、展覧会企画など、ジャンルを超えて幅広い活動をおこなう。編集学校「スーパースクール」、ギャラリー「G/P gallery」「g³/gallery」主宰。2011年よりアートフェア「TOKYO FRONTLINE」を企画、実施。

■箭内道彦(やない・みちひこ)

クリエイティブディレクター

1964年福島県生まれ。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。博報堂を経て、2003年『風とロック』を設立。同年、『月刊 風とロック』を創刊。主な仕事に、タワーレコード『NO MUSIC, NO LIFE.』、ゼクシィ「Get Old with Me.」、サントリー「ほろよい」、東京メトロ「TOKYO HEART」「TOKYO WONDERGROUND」、ケイリン 2011、グリコ「ビスコ」、桃屋「辛そうで辛い少ない少し辛いラー油」など。TOKYO FM・JFN 系ラジオ『元・風とロック』パーソナリティ。2011年6月をもって『風とロック』を解散し、『すき』『あいたい』『ヤハイ』を設立。

<http://www.yanaimichihiko.jp/>

■長谷川祐子(はせがわ・ゆうこ)

東京都現代美術館 チーフキュレーター

批評を基幹に据える国際派キュレーター。東京都現代美術館 チーフキュレーター。京都大学法学部卒業、東京芸術大学大学院修了後、水戸芸術館、世田谷美術館勤務、ホイットニー美術館(NY)研修などを経て、99年より金沢 21世紀美術館の立ち上げに参加、建築、コレクションなどをディレクションする。オープニング展『21世紀の出会い共鳴、ここから』、『Matthew Barney: Drawing Restraint 9』などを企画。また2001年イスタンブールビエンナーレ総合コミッショナー、02年上海ビエンナーレ、05年メディアシテイ・ソウル、10年サンパウロ・ビエンナーレの共同キュレーター、第12回ヴェニス建築ビエンナーレ アーティスティック・アドバイザーを務める。東京都現代美術館にて『東京アートミーティング』という他のジャンルの専門家と共同企画を進行中。11年はSANAAと『東京アートミーティング(第2回) これからの建築空間一建築、アート、人々の新しい環境』を開催。06年より現職。多摩美術大学特任教授。学生ゼミとしてcuratorial practice in the urban environment (CPUE)を都内各所で展開する。著書「おんなの子のための現代アート入門」(淡交社)

<企画12人セミナー ファシリテーター>

■河尻亨一(かわじり・こういち)

元「広告批評」編集長/銀河ライター主宰/HAKUHODO DESIGN・キュレーター/東北芸術工科大学客員教授

1974年生まれ、大阪市出身。早稲田大学政治経済学部卒業。雑誌「広告批評」在籍中には、広告を中心にファッションや映画、写真、漫画、ウェブ、デザイン、エコなど多様なカルチャー領域とメディア、社会事象を横断する様々な特集企画を手がけ、約700人に及ぶ世界のクリエイター、タレントにインタビューする。現在は雑誌・書籍・ウェブサイトの編集から、企業の戦略立案およびPRコンテンツの企画・制作まで、「編集」「ジャーナリズム」「広告」の垣根を超えた活動を行う。雑誌「ケトル」や「日経トレンディネット」での連載をはじめ、雑誌「広告」ほかにもレギュラー執筆。蘭「ARCHIVE」誌のアジア特派員も務める。東北芸術工科大学では「都市人物論」を担当。